

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸長させ、社会をリードする人材を育成する学校。
1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。
【参考】スクールミッション
校訓「進取・創造・敬愛」のもと、総合学科・演劇科・食物文化科の3つの学科を設置するとともに、中学校を併設する高校として、異なる価値観を認めて多様な他者と協働し、社会の変化に柔軟に対応して新しい時代を切り拓く、高い志とチャレンジ精神を備えた人物を育成する。

2 中期的目標

1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成
（1）生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進
ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。
イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。
（2）自学自習習慣の確立
ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備や大学生の学習ボランティアの活用など学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。
※授業アンケート調査における「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定率を令和10年度には85%以上を維持する。(R5 84.3% R6 87.6% R7 88.2%)
※授業アンケート調査における「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定率を令和10年度には85%以上を維持する。(R5 84.3% R6 88.6% R7 89.1%)
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
（1）基本的生活習慣の確立
ア 基本的な生活習慣の確立と挨拶運動からの互いに尊重する態度の育成など、規範意識の醸成を図るため正門での登校指導や遅刻指導等に取り組む。
（2）学校行事の活性化
ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を生かした取組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。
イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を尊重し、理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。
ウ 姉妹校の訪問と受け入れや訪日団体の受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。
（3）体力・運動能力向上のための取組みの充実
ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるよう事故防止や熱中症予防についてのセミナーを開催し、健康管理や救急救命処置等についての学校全体の意識を高める。
※学校教育自己診断における「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している」の肯定率を令和10年度には85%以上を維持する。(R5 83.4% R6 86.2% R7 88.8%)
※学校教育自己診断における「私は服装や頭髮等、生徒心得を守っている」の肯定率を令和10年度には97%以上にする。(R5 95.7% R6 94.5% R7 95.8%)
3 進路保障
（1）キャリア教育の推進
ア 学校生活における全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。
（2）進学対策の充実
ア 学習支援クラウドサービスを効果的に活用するとともに、長期休業中に集中的にセミナーを実施するなど進路や習熟度に応じた対策を講じる。
イ 学年・学科・系列と協力し、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。
ウ 1人1台端末を使用して、学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを効果的に活用した一人ひとりのニーズに応じた進路指導を推進する。
※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和10年度には85%以上にする。(R5 69.2% R6 81.6% R7 82.5%)
※学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を令和10年度には全学年で85%以上を維持する。(R5 84.5% R6 85.8% R7 88.2%)
※第3学年当初の希望進路実現率を令和10年度には90%以上にする。(R5 90% R6 87% R7 90%)
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり
（1）学校運営体制の整備
ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。
イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。
（2）授業研究を伴う校内研修の充実
ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。
（3）働き方改革
ア 校内組織の見直し、ICT活用の推進および部活動方針に沿った活動の適正化を図る。
（4）家庭・地域との連携の推進
ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」等のデータ配信、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。
（5）広報活動の充実
ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページや公式SNSを通じて外部に積極的に情報を発信する。
※時間外在校等時間年間360時間超の人数を前年度より減少させる。(R5 -人 R6 -人 R7 20人)
※学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で令和10年度には90%以上にする。(R5 85.5% R6 84.1% R7 90.0%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進 ア 主体的・対話的で深い学びの実現 イ 授業への ICT 機器の効果的な活用 (2) 自学自習習慣の確立	ア・一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、専門人材を積極的に活用し、確かな学力の育成と授業改善に取り組む。 大学と連携し高大接続の強化 イ・1人1台端末を効果的に活用した教育実践に取り組む。 ・学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを活用し、自身の課題把握や教材配信など学習支援を図る。また大学と連携し、大学生の学習ボランティアによる自習環境を整える。	ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合 95%以上を維持[100%] ・授業アンケート結果で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の肯定率 85%以上を維持[88.2%] ・授業アンケート結果で「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率 85%以上を維持[89.1%] イ・生徒用学校教育自己診断で、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 90%以上を維持[93.2%] ・教職員用学校教育自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合 90%以上を維持[96.8%] ・大学と連携し、学習ボランティアを活用した土曜セミナー(自習スペース開放)を年間5回実施[5回]	
2 豊かでたくましい人間性のほぐみ	(1) 基本的生活習慣の確立 (2) 学校行事の活性化	・基本的な生活習慣の確立と挨拶運動からの互いに尊重する態度の育成など、規範意識の醸成を図るため正門での登校指導や遅刻指導等に取り組む。 カウンセリングシートを用いた個別指導 遅刻防止週間の設定 早朝登校の実施 ・生徒会役員がリーダーとなり、生徒が自主的に学校行事を運営することにより、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、姉妹校の訪問や受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。	・年間の遅刻数を1人あたり3回以下[3.75回] ・生徒用学校教育自己診断「私は体育祭・文化祭などの学校行事に積極的に参加している」の肯定率 90%以上[93.4%] ・姉妹校との交流に参加した生徒の満足度 90%以上[93.0%]	

府立咲くやこの花高等学校

	(3) 体力・運動能力向上のための取り組みの充実	・事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるようセミナー等を開催し学校全体の意識向上を図る。	・年1回以上救急救命法や熱中症予防等の生徒向けセミナーを開催[1回] ・生徒用学校教育自己診断「本校は生徒の健康管理を適切に行っている」肯定率 85%以上[90. 2%]	
3 進路保障	(1) キャリア教育の推進 (2) 進学対策の充実 ア 進路や習熟度に応じた進路指導の推進 イ 多様な進路希望に対応した情報発信	・学校生活における全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを实践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。 ア・学習支援クラウドサービスを効果的に活用し、従来中心であった放課後のセミナーを長期休業中に集中的に実施する。 イ・進路意欲向上のため学年・学科・系列と連携のもと、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的におこなう。 大学教員による進路ガイダンス 大学教員による出前講義や実技講習 学科、系列ごとの大学訪問	・生徒の状況や実態に応じたガイダンスや講話を各学年とも学期に1回以上実施[1年6回、2年14回、3年20回] ア・セミナーの講座数 20 講座程度[21 講座] イ・学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施[12回] ・2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合 80%以上[82. 5%] ・3学期の生徒・保護者学校教育自己診断「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率が生徒 85%以上[88. 2%]・保護者 75%以上[74. 7%] ・第3学年当初の希望進路実現率 85%以上[89. 9%]	
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり	(1) 学校運営体制の整備 (2) 授業研究を伴う校内研修の充実	・特色ある教育の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」の推進を図り、連携を強化する。 ・本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的に開催し、魅力ある教育活動の実施をめざす。 ・教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて、個に対応できる授業力・教科指導力の向上をめざす。	・教職員用学校教育自己診断で、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定率 70%以上[61. 3%] ・校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間5回以上開催[5回] ・公開授業週間、保護者対象授業参観を実施[公開授業週間2回、保護者対象授業参観2回] ・教職員用学校教育自己診断「学校は教育活動全般について生徒や保護者の願いに応えている」の肯定率 90%以上[93. 6%]	

	(3) 働き方改革 (4) 家庭・地域との連携の推進 (5) 広報活動の充実	・校務運営における ICT 活用を推進し、校務の整理と効率化を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。 全校一斉定時退勤日の徹底 「部活動方針」を遵守するとともにノークラブデーの徹底 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化徹底 ・開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。 区主催のイベントへの参加 地域との連携事業の推進 ・ホームページについて、公式 SNS との役割分担等研究して積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を正しく外部に伝える。 公式 SNS の充実発展 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営	・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員をゼロにする[6 名] ・保護者用学校教育自己診断「本校は保護者に対して、教育活動を理解するための情報提供が適切に行われている」の肯定率 85%以上[83. 9%] ・教職員・PTA の合同研修会を 1 回以上実施[1 回] ・地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[6 回] ・ホームページの更新 100 回以上[18 回] ・公式 SNS の更新 100 回以上[97 回] ・生徒用学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率 85%以上[90. 0%]	
--	---	--	---	--